

岐阜工業高等専門学校

数理・データサイエンス・AI教育プログラム 自己点検評価

評価会議名称：点検評価・フォローアップ委員会

参加者：点検評価・フォローアップ委員長、各学科点検評価・フォローアップ委員

目的：令和3年度の数理・データサイエンス・AI教育プログラムの自己点検内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の審査項目の観点による評価

認定制度の評価項目	モデルカリキュラム	対象科目	内部評価
数理・データサイエンス・AIは、現在進行中の社会変化（第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等）に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついているものであること。	導入 1-1. 社会で起きている変化 1-6. データ・AI利活用の最新動向	ものづくり入門・情報リテラシー・情報処理Ⅰ・機械工学基礎研究（機械工学科） 電気電子設計製図・計算機アーキテクチャ（電気情報工学科） 電子制御工学概論（電子制御工学科） 空間情報工学（環境都市工学科） 建築学通論（建築学科）	A
数理・データサイエンス・AIが対象とする「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得ること。	導入 1-2. 社会で活用されているデータ 1-3. データ・AIの活用領域	情報リテラシー・機械工学実験Ⅰ・機械工学実験Ⅱ・機械工学基礎研究（機械工学科） 電気電子設計製図・電気情報工学実験（3年）（電気情報工学科） 電子制御工学概論（電子制御工学科） 空間情報工学（環境都市工学科） 建築学通論（建築学科）	A
様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するものであること。	導入 1-4. データ・AI利活用のための技術 1-5. データ・AI利活用の現場	情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ・機械工学実験Ⅰ・機械工学実験Ⅱ・機械工学基礎研究（機械工学科） 電気電子設計製図・電気情報工学実験（2年）・論理学（電気情報工学科） 情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ・電子制御工学概論（電子制御工学科） 空間情報工学（環境都市工学科） 環境社会学・デジタルデザインⅠ（建築学科）	A
数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮することが重要であること。また、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解が重要であること。	心得 3-1. データ・AI利活用における留意事項 3-2. データを守る上での留意事項	情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ・機械工学基礎研究・技術者倫理（機械工学科） 電気電子設計製図（電気情報工学科） 電子制御工学概論・電子制御工学実験Ⅰ（電子制御工学科） 技術者倫理（環境都市工学科） 情報処理（建築学科）	A
実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関すること。	基礎 2-1. データを読む 2-2. データを説明する 2-3. データを扱う	機械工学実験Ⅰ・機械工学実験Ⅱ・機械工学基礎研究（機械工学科） 電気情報工学実験（2年）・電気情報工学実験（3年）・応用数学A・プログラミング（3年）（電気情報工学科） 応用数学A・電子制御工学実験Ⅰ（電子制御工学科） 基礎実験Ⅱ（環境都市工学科） 建築環境実験（建築学科）	A

S：審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A：審査項目の観点通りの成果を達成した。

B：審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応案が立案され、対応に着手している。

C：審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。さらに、達成に向けての対応案が立案されていない。